



# EASTER VILLAGE



イースタービレッジだより・第 29号



ホープホーム（希望の家）の初代メンバー

ホープホーム

祐川郁生神父

今年の四月、五月のフィリピンの夏休みは、イースタービレッジにとってはチャレンジの日々だった。今年から新たに始める「インディペンデント・リビング」プログラムの準備のためだ。

このプログラムに関しては以前より勉強を重ねてきたが、ついに着手することとなった。年齢の上の子どもたちがインディペンデント（自立）するための時期を自主的に過ごすプログラムだ。敷地内だがEVホームより少し離れ、川の向こう側に一軒屋に住む。自分たちで畑も耕し、買い物、食事も自分たちでこなす。担当のソーシャルワーカーのマイマイがスーパーバイズする形をとっている。

フィリピン福祉局のこの推奨されるプログラムでは、年齢が21歳までとなっている。懐かしい顔ぶれのウィナリン、ゴゴ、アナリン、ダント、サミー、それに奨学生のハニーの六人でスタートしている。この家は「ホープホーム」と名づけられた。

いずれ、EVホームの子どもたちが大きくなって、準備が整っていると判断されれば、こちらに移るといふシステムができあがったことになる。0歳から21歳まで、自立して夢をもって送り出すシステムと考えている。

0歳から1歳ぐらまでは、エンジェル・ルーム、よちよち歩きから3歳ぐらまでは別の部屋に移し、それ以降はEVホーム、そして、インディペンデント・リビング（グループホーム）という流れができた。

一つの家族のように、上の子どもたちは下の子どもたちをよく面倒見ており、その姿に目を細めている。北海道を始め、全国の支援者の皆様の暖かいご支援が目に見える形で、子どもたちの笑顔に変わっている。感謝。

# イースター

4月4日、復活祭はE.Vにとつてはフィエスタ(祭り)です。支援者への感謝の祈りをささげ、その後、チャイルドケアの子どもたちも一緒にイースターエッグの飾りつけや、塗り絵、また色々なゲームをして一日楽しみました。



フィリピンの復活祭は真夏にお祝いされますが、元気に色々なゲームなどをして楽しめます。

今年の聖週間は、祐川神父は北海道の八雲教会で奉仕。久しぶりの北海道での復活祭を八雲教会の方々と有意義に過ごすことができました。大自然に囲まれ、酪農、農業、漁



イースターに関する塗り絵大会で上手に塗り絵するエンジェル。毎年のことでベテランの域に入っていますね。

業の町として知られる静かでおおらかな町で、ゆつくりと過ごすことができました。また、E.Vのこれからのことを思索する機会ともなり、多くの支援者との出会いもあり、感謝の旅となりました。



八雲教会の皆様と復活祭の日曜日に記念撮影。いつもは子どもたちと祝うイースター、今年は昔の子どもたちと一緒にでした。



八雲教会の皆様からイースタービレッジへご寄付を頂きました。これからもフィリピンの子どもたちのために働きます。

## E.V.C.C 終了式

3月25日、チャイルドケアセンターの卒業・終了式が行われました。6月からそれぞれ進級です。ジャペットが卒業です。



国歌に続いてキダバワンの歌、イースタービレッジの歌を歌います。みんなそれぞれの進級を祝いました。



卒業のジャペット。お母さんと



みんな一人一人将来の夢を披露します。一ヶ月滞在のシスター五十嵐のようにシスターになりたい子どももいます。将来が楽しみ。

## エンジェル・ターザン

エンジェルとターザンがパナボ市にいる父親の元へ帰ることになりました。5年半以上E.Vで暮らしたことになりました。ソーシャルワーカーが何度も足を運び、お互いの準備がで



キダバワンから一時間ほど離れたカバカンという町で、四人兄弟と一緒に暮らしています。おしゃまなインダイは、学校でも積極的に得意の歌や踊りを披露しているそうです。トントンは足が速いのでその内学校代表で地区大会で優勝を目指しているとか。

先に家族のもとへ戻ったインダイ、トント  
ンもご覧のように、他の兄弟たちと一緒に元  
気に暮らしています。



三人兄弟の真ん中のクリスチャンはすでにお父さんのところで暮らしていました。これで三人またそろって家族と親戚に囲まれて暮らすことができます。少し学校が遠くなると不平を言いながらも笑顔で帰省しました。元気だね。

きた上でのことで、職員も子どもたちも暖かく送り出しました。



### ホープホームの祝福式

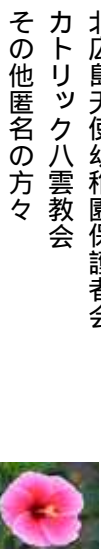
E Vホームの子どもやホープホームに入る子どもたち、職員やシスター方と一緒に新しいホープホーム(希望の家)の祝福とこれからの自立生活に向けて、神とこれを可能にしてくれた支援者へ感謝の祈りを捧げました。



E Vに毎週一回、ピアノの先生を招いて教えていただいています。E Vにはキーボードしかないの、本番の本物のピアノには慣れておらず、緊張しっぱなしの子どもたち。いつか、本物のピアノで練習させてあげたいと思っています。

毎週ピアノレッスンをしているE Vの子もたちも発表会で演奏しました。いつか子どもたちの中からピアニストが出るかも。

### ピアノリサイタル



2010年2月20日～6月2日



ご寄付いただいた方々、

心より御礼申し上げます

(敬称略、順不同)

- 成島蓉子 榎本みつ枝 大久保政紀
- カトリック北26条教会 佐々木賢秀
- 長谷川潤 立藤昇子 川嶋惇 久川洋子
- 水口透 天使の聖母トラピスチヌ入修道院
- 札幌聖心女子学院高校42回卒業生
- カトリック円山教会E Vを支える会
- カトリック北広島教会 武井範子
- 窄口三千江 水上みち子 宮崎喜代子
- 高秀悦子 岡山仁子 井上裕介 浜田充啓
- 永井和夫 佐藤克洋 舩田富榮 祐川眞一
- 佐藤美祢子 佐藤道子 阿部秀子 入江幸子
- 萬屋三男 西敏明 川本悦子 大箱淳
- 札幌インナーホイールクラブ・荒岡美千代
- 原祥子 扇谷ウタ子 坂上満子 中村ヨリ子
- 森谷朋子 東門伸三・昭子 東沢ひろみ
- 上野祐子 前田ヨシ・小野京子 小川昭子
- デユマス・エミール神父 水曜会
- 角田了 黒田道子 阿部嘉秋 飯塚雄介
- 岩崎矩子 樋瓜清子 水口透 島崎大輝
- 辻知子 鈴木利夫 澤田あさみ
- 夙川教会・手芸の会・木村公美
- 大竹紀子 雪田瑠美子
- カトリックさいたま教区
- カトリック川口教会 本田修二・メレス
- 北広島天使幼稚園保護者会
- カトリック八雲教会
- その他匿名の方々



# イースタービレッジの夏休み

## 夏休みの遠足



今年の夏休み（4月と5月）も待ちに待った二泊三日の遠足の日がやってきました。早めに受け入れ家庭や親戚の家で休みを過ごす子どもたちを除いて、今年はダバオに行ってきました。



生まれて初めて海を眺めるCJ。海には不思議な魅力があるのでしょうか。ずっと飽きずに眺めていました。母なる海に家族を思い出しているのでしょうか。

初日はダバオの海沿いのリゾート地でお弁当を食べ、プールで一日泳ぎました。海は今回は入れませんが、ボーッと眺めていました。



二日目はダバオを一望できる山のリゾート地、ローリングスに行きました。ここは自炊ができ、大きな軒屋を借り、プールや散策、森林浴、遊具などで遊べます。楽しい日を過ごしました。

ローリングスという山のリゾートですが、ダバオの町が見え、遠くには海が。海拔800メートルの場所で花々が咲き乱れ、空気も最高に美味しいところです。ホームページビデオ参照



夏休みの思い出写真集



全員で記念写真・ローリングスにて

ピースキャンパ

4月25日から29日まで、敷地の広くなったEVで、毎年ミンダナオで開かれる子どもたちのためのピースキャンパが行われました。

これはコタバト・ミドサヤフの南キリスト教大学が主催しており、先住民、イスラム教徒、キリスト教徒の子どもたちが寝食を共にし、お互いの文化を理解しあうことを目的としています。今回はEVや他の施設からの参加者もあり総勢60名以上に上りました。



た。今回のテーマは「平和の促進：子どもたちの権利を大事に」というもので、大学生を中心にリーダーたちがいろいろと企画していました。

基本的にはテント生活で、勉強あり、体を使つての活動あり、キャンプファイアーあり、子どもたち同志の友情を育む場にもなりました。ドイツのNGOからの支援で毎年行われているキャンプですが、食べ盛りの子どもたちの胃袋を満たす食料が不足で、EVから差し入れをしました。



それぞれの文化や宗教を認め合い、理解しあうことが平和構築の第一歩。子ども時代から、多様性の一致を体験し、異なる文化の友達ができるということは、本当に素晴らしいことだと感じました。

また、来年もミンダナオのどこかで行われます。EVの子どもたち



キャンプファイアーやいろいろなコンテストなどもあり、良い交流となりました。



5日間の総仕上げとして、4グループに分かれて、自分たちが学び、描く平和を絵にしました。共同作業でそれぞれの思いを話し合い完成させたものです。人と人とのつながりが平和を構築するというものや、自然を含めた調和を強調する絵など、この子どもたちがミンダナオの平和に貢献する日も近いでしょう。

ちも参加させたいと思います。最後に子どもたちの絵をご覧ください。

## 新学期始まる

いよいよ6月から新学期が始まりました。6月19日現在、EVには、乳児5名、幼稚園児3名、小学生9名、高校生3名、大学生3名が住んでいます。

ウイナリン、ハニーは奨学生ですが、ホープホームに住んで自立を目指しています。一人ダバオでソーシャルワークの勉強を続けているエイプリルアンは成績も良く大学3年生になります。EVCC(チャイルドケアセンター)はEVからの3名の他、今年は人数が増えて総勢30名以上になりました。



EVCCの子どもたち、大学新卒の若いビビアン先生(左から2番目)とバジン先生と一緒に毎日おおはしゃぎです。



新しいカバンの中には一年間の勉強道具や制服、くつした、下着などがびっしり。確認中の写真です。

## 新しい子どもたち

一時的保護で預かった姉妹、姉のリサ(4)と妹のクリスティン(2)、わずか四週間でしたがEVに暮らしました。



右からリサ、クリスティン、EVの日本語版の記録としてこのたよりに載せています。元気でね。

また、来たばかりの姉弟は姉がメリーアン(推定5歳)、弟がマイケル(推定2歳)です。情報不足で推定しかできませんが、今後、調査して行きたいと思います。



右からメリーアン、マイケル、お姉さんがいないとすぐに泣いてしまうマイケル。

## 誕生日おめでとう

3月18日、CJことクリスチャン・ジェイクが2歳になりました。



まだ、言葉が遅れていますがおっとりとした性格で、甘えん坊です。



4月生まれば14日で4歳になったサイルスと19日15歳になったポットです。サイルスは妹のジョイスと

共に今は母親の元で暮らしています。ポットポットは最初年齢不明でしたが、何と15歳ということが分かり、ちょっと照れくさそうでした。小学校1年生ですが、堂々と学校に通っています。5月生まれば29日で12歳になったベルナ。ビビとジョビーと並んでEVホームではお姉さん役。小さな子どもの面倒もよく見てくれます。



名古屋の天使園から来た時はまだ8歳でしたが、もう12歳のお姉さん。急に背が伸びてきました。



## イースタービレッジ雑感 (23)



### アメージング・グレイス

Amazing grace, how sweet the sound やさしい愛の 手のひらで  
 That saved a wretch like me 今日もわたしは うたおう  
 I once was lost, but now I m found 何も知らずに 生きてきた  
 Was blind, but now I see わたしはもう 迷わない (岩谷時子訳)

人は時に生きることには困難を感じる。人生の嵐の中に巻き込まれ、出口が見えない。この歌を作ったジョン・ニュートンは18世紀、奴隷貿易に関わり、船で奴隷たちを運んでいた。航海の途中、ものすごい嵐に出会った時、彼は心から神に叫んだのだった：「もしこの嵐を生き延びることができれば、神よ、私はこの商売から足を洗い、あなたの奴隷になります」と。

そして、彼は難を逃れ、約束どおり、奴隷ビジネスから足を洗い、宣教師となった。後に彼のこの回心を Amazing Grace (驚くべき恵み) と彼は歌ったのだ。



出口のない、底なしの苦しみを味わっている人たちは大勢いる。

アジアやアフリカの貧しい人々だけではなく、日本のような豊かな国にも。

イースタービレッジに最近来た二人の幼い姉妹は、入所後、すぐに虫下しの薬を飲ませた。今まで僕も見ることがなかったほど、大きな回虫が何匹も出た。身の回りにあった非衛生的なものを何でも口に入れた結果だろう。小さな体を震わせ、回虫を吐き出す姿は、なんとも切ない。しかし、三日かかりすべてを吐き出すと、不思議と可愛らしい笑顔をみせてくれた。嵐が過ぎ去ったようだった。



ふと、日本の社会にはびこる、人を不幸に導いていく回虫も、先行き不透明の不安の中、福音によって吐き出させることはできないだろうか、感じる。

「わたしはもう迷わない」生き方をしている人がどれだけいるだろうか。

嵐はまだ続いているが、嵐を生き抜き、迷わない人の信念を歌ったこの歌が、時代を超えて私たちの応援歌になろう。





グリーンマンゴ

日本では黄色い甘いマンゴが一般的で人気ですが、フィリピンにはもともとグリーンマンゴがあります。ネイティブのものはちょっと酸っぱく、粒も小さいですが、酢や塩をつけて食べるのが一般的。写真はインディアンマンゴと呼ばれるもので、そのままでも甘酸っぱく十分美味しく食べられます。1キロ10ペソ(20円)と黄色いマンゴよりも四分の一の値段です。子どもたちは久しぶりのグリーンマンゴに舌鼓を打っていました。ぜひお試しあれ。

<支援のお願い>

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子どもたちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争の原因を取り除く平和の使者となるようにできるだけ援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡くださいませ。

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」(支援者募集)

代表 勝谷 太治 事務局 鈴木 みち子 松川 厚明  
060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館内

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金 : 年会費一口 ¥5,000 (一口以上) 一般寄付

郵便振替口座番号 : 02760-3-39473

口座名称 : イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現地事務所: EASTER VILLAGE OFFICE

Riverpark Subd., Kidapawan City 9400 Cotabato Philippines

Tel: 63-64-278-4742 Fax: 278-3116 Email: info@eastervillage.com

Website: http://eastervillage.com

\* 会員、並びに奨学生を支えて下さっているスポンサーの方々、一般のご寄付を下さった方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。(年四回)

2010年6月

「イースタービレッジだより第29号」

発行責任者: 祐川郁生





